



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月14日

上場会社名 株式会社インターネットイニティー 上場取引所 東
 コード番号 6545 URL https://iif.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 別宮圭一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 星野健治 (TEL) 03-6897-4777
 四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	3,725	14.1	173	696.9	210	364.6	115	—
2023年3月期第3四半期	3,265	3.4	21	△83.1	45	△81.7	9	△94.3

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 115百万円(—%) 2023年3月期第3四半期 9百万円(△94.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	21.82	21.29
2023年3月期第3四半期	1.68	1.64

- (注) 1. 2024年3月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年3月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。
 2. 2024年3月期第3四半期の親会社株主に帰属する四半期純利益及び包括利益の対前年同四半期増減率は、1,000%以上となるため「—」と記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	3,447	1,373	39.8
2023年3月期	3,184	1,288	40.5

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 1,373百万円 2023年3月期 1,288百万円

(注) 2024年3月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,022	12.5	172	79.6	160	9.7	106	213.6	19.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2024年3月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度の営業利益は96百万円、経常利益は146百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は33百万円と暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。これに伴い、対前期増減率についても反映後の数値にて計算しております。また、業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当第3四半期連結累計期間における自己株式の取得及び処分による影響を考慮して算定しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(注) 特定子会社の異動には該当いたしません。2023年11月1日付で株式会社レコードブックを新規設立したことに伴い、同社を当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年3月期3Q	5,427,771株	2023年3月期	5,427,771株
2024年3月期3Q	123,743株	2023年3月期	28,108株
2024年3月期3Q	5,314,434株	2023年3月期3Q	5,390,839株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う社会経済活動の一層の正常化とインバウンド需要等の回復が見られた一方、ウクライナ情勢の長期化による世界的な資源価格の高騰や為替相場の大幅な変動による影響により、一般消費者の消費行動にも影響が広がるなど、景気の回復基調は緩やかにとどまり、依然として先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの事業に関わる高齢社会に関連する市場におきましては、ウィズコロナ社会における「新しい生活様式」が高齢者にも浸透しており、外出意欲の高まりや社会活動の正常化に伴い、健康への関心がより高まってきております。加えて、中長期的には今後も高齢化率の上昇基調が続くことから、引き続きヘルスケアサービスの需要は高まっていくものと予想されます。

また、介護業界では人材不足が深刻化しており、人材の確保が重要な経営課題として認識されております。その一つの対応策として、2022年10月には臨時の介護報酬改定が実施され、介護職員の賃金改善に充てるための「介護職員等ベースアップ等支援加算」が新設されました。次回の介護報酬改定は2024年度に予定されており、介護保険制度を将来にわたり安定的に持続させるため、介護人材の確保に加え、介護現場の生産性向上を推進するための介護制度の見直しが行われる見通しです。

このような環境の中、当社グループは「健康な未来」というコーポレートスローガンのもと、「創意革新と挑戦による超高齢社会における課題解決」をミッションと位置づけ、2023年6月に公表した「事業計画及び成長可能性に関する事項」で示した「IIF Vision2030」や経営目標の達成に向けた取組みを実行し、持続的な成長と中期的な企業価値向上の実現に向けた動きを加速してまいります。

また、当社はリモートワークの推進等、我が国が掲げる「働き方改革」の推進や働き方の多様化に対応するとともに、より一層の業務運営の効率化と従業員間のコミュニケーションの活性化を図るべく、2023年10月に本社の移転を実施し、これに伴い当第3四半期連結会計期間以降は賃料等の固定費が削減されております。しかしながら、当第3四半期連結累計期間においては、本社移転に伴う減価償却費等の負担が一時的に増加した結果、前年同四半期と比べ販管費が増加しております。一方、前年同四半期と比較してレコードブック事業や在宅サービス事業等の既存事業の利用者が順調に増加したことに加え、前年同四半期に実行した複数のM&Aに関連した一時費用の負担が当第3四半期連結累計期間はなくなったため、営業利益以下の段階利益は大きく増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は3,725,080千円（前年同四半期比14.1%増）、営業利益は173,122千円（前年同四半期比696.9%増）、経常利益は210,697千円（前年同四半期比364.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は115,942千円（前年同四半期比1,178.9%増）となりました。

なお、第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度末及び前年同四半期との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりです。

(ヘルスケアソリューション事業)

レコードブック事業におきましては、当第3四半期連結累計期間において短時間リハビリ型通所介護サービス（デイサービス）「レコードブック」のフランチャイズが4カ所増加しております。また、直営店3カ所をフランチャイズ加盟店に譲渡及び2カ所を閉店した結果、直営店が26カ所、フランチャイズが175カ所となりました。

そのほか、名古屋鉄道株式会社との合弁会社である株式会社名鉄ライフサポートが愛知県を中心に展開する「名鉄レコードブック」は、当第3四半期連結会計期間末において21カ所となっております。

これにより、「レコードブック・ブランド」の店舗が合計で222店舗（前年同四半期末は217店舗）となりました。

これらのフランチャイズの店舗数増加に加え、高齢者に運動習慣の重要性への理解が浸透したことにより、レコードブックの既存店舗の稼働率については回復基調で推移したため、直営店舗の売上高や加盟店からのロイヤルティ等の収入は前年同四半期と比べ増加いたしました。

一方、当第3四半期連結累計期間におけるフランチャイズの新規出店に伴う加盟金等による収入は前年同四半

期と比べやや減少いたしました。また、当社が設備投資を行い、フランチャイズ加盟店にレンタルをするプランから、当初契約期間5年間の満了に伴いプランを変更した店舗が増加したため、これまで当社が負担していた地代家賃・減価償却費等の原価と同額の売上高がともに減少いたしました。

この結果、レコードブック事業全体では前年同四半期と比べて売上高はやや減少した一方、営業利益はやや増加いたしました。

Webソリューション事業におきましては、当第3四半期連結累計期間において、人員体制を強化し営業活動の推進やコンテンツの拡充等を行った結果、シルバーマーケティング支援では大型案件を、メディカルソリューションの分野では複数の新規受注を獲得いたしました。

この結果、前年同四半期と比べて売上高、営業利益ともに大きく増加いたしました。

従来のケアサブライ事業につきましては、当第3四半期連結累計期間より、アクティブライフ事業に名称を変更しております。当該変更は名称の変更のみであり、その内容に与える影響はありません。2022年10月より株式会社正光技建を連結の範囲に含め、介護保険外の住宅リフォーム事業を開始しております。同事業は資源価格の高騰等の影響を受け、全体の原価率は上昇しております。

この結果、前年同四半期と比べて売上高は増加した一方、営業利益は減少いたしました。

これらの結果、売上高は2,562,689千円(前年同四半期比11.5%増)、営業利益は302,892千円(前年同四半期比8.7%増)となりました。

(在宅サービス事業)

在宅サービス事業におきましては、連結子会社のカンケイ舎において、2022年12月の事業譲受により新たに施設介護事業を開始しております。既存の事業においても、人事制度改革等により人材の確保が進んだ結果、サービス提供回数が増加いたしました。

これらの結果、売上高は1,162,390千円(前年同四半期比20.2%増)、営業利益は270,501千円(前年同四半期比25.5%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,388,810千円となり、前連結会計年度末に比べ340,302千円増加いたしました。その主な要因は、現金及び預金が220,844千円、受取手形及び売掛金が61,668千円それぞれ増加したことによるものです。

固定資産は1,059,062千円となり、前連結会計年度末に比べ76,767千円減少いたしました。その主な要因は、無形固定資産が35,212千円、有形固定資産が21,289千円、投資その他の資産が20,265千円それぞれ減少したことによるものです。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における資産合計は3,447,873千円となり、前連結会計年度末に比べ263,535千円増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,762,811千円となり、前連結会計年度末に比べ305,968千円増加いたしました。その主な要因は、短期借入金が150,000千円、預り金が118,707千円それぞれ増加したことによるものです。

固定負債は311,404千円となり、前連結会計年度末に比べ127,960千円減少いたしました。その主な要因は、長期借入金111,715千円減少したことによるものです。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債合計は2,074,215千円となり、前連結会計年度末に比べ178,008千円増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は1,373,658千円となり、前連結会計年度末に比べ85,526千円増加いたしました。その主な要因は利益剰余金が115,942千円増加した一方で、自己株式が32,946千円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2023年5月15日付「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。業績予想値は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,107,371	1,328,215
受取手形及び売掛金	813,000	874,669
貯蔵品	13,658	15,965
その他	118,919	175,615
貸倒引当金	△4,441	△5,655
流動資産合計	2,048,508	2,388,810
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	219,584	202,651
その他(純額)	60,798	56,441
有形固定資産合計	280,382	259,093
無形固定資産		
のれん	362,064	347,812
その他	110,345	89,385
無形固定資産合計	472,410	437,198
投資その他の資産		
差入保証金	190,709	148,576
繰延税金資産	159,229	187,109
その他	33,098	27,084
投資その他の資産合計	383,037	362,771
固定資産合計	1,135,830	1,059,062
資産合計	3,184,338	3,447,873
負債の部		
流動負債		
買掛金	74,836	76,714
短期借入金	400,000	550,000
1年内返済予定の長期借入金	114,116	121,987
未払法人税等	84,626	58,633
預り金	440,665	559,373
賞与引当金	54,852	47,142
その他	287,745	348,960
流動負債合計	1,456,842	1,762,811
固定負債		
長期借入金	307,780	196,065
資産除去債務	64,159	67,657
その他	67,424	47,681
固定負債合計	439,364	311,404
負債合計	1,896,206	2,074,215

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	252,302	252,302
資本剰余金	237,302	239,822
利益剰余金	821,715	937,657
自己株式	△23,183	△56,130
株主資本合計	1,288,136	1,373,652
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5	6
その他の包括利益累計額合計	△5	6
純資産合計	1,288,131	1,373,658
負債純資産合計	3,184,338	3,447,873

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	3,265,485	3,725,080
売上原価	2,081,635	2,338,851
売上総利益	1,183,850	1,386,228
販売費及び一般管理費	1,162,126	1,213,106
営業利益	21,723	173,122
営業外収益		
事業譲渡益	5,527	44,507
助成金収入	27,077	26
その他	5,142	9,379
営業外収益合計	37,746	53,913
営業外費用		
支払利息	12,027	14,943
その他	2,092	1,393
営業外費用合計	14,120	16,337
経常利益	45,350	210,697
特別利益		
固定資産売却益	—	59
特別利益合計	—	59
特別損失		
減損損失	7,314	—
本社移転費用	—	17,637
特別損失合計	7,314	17,637
税金等調整前四半期純利益	38,036	193,120
法人税等	28,970	77,178
四半期純利益	9,065	115,942
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,065	115,942

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	9,065	115,942
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	11
その他の包括利益合計	△6	11
四半期包括利益	9,059	115,953
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,059	115,953

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヘルスケアソリューション事業	在宅サービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,298,514	966,970	3,265,485	—	3,265,485
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,298,514	966,970	3,265,485	—	3,265,485
セグメント利益	278,572	215,556	494,129	△472,405	21,723

- (注) 1. セグメント利益の「調整額」△472,405千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、「注記事項(企業結合等関係)」の「連結子会社による事業譲受」に記載の暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直し反映後の金額であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

ヘルスケアソリューション事業において、第1四半期連結会計期間に固定資産の減損損失を計上しております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては7,314千円であります。

ヘルスケアソリューション事業において、当第3四半期連結会計期間に株式会社正光技建の全株式を取得したことにより、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの発生額は、当第3四半期連結累計期間においては77,770千円であります。また、在宅サービス事業において、当第3四半期連結会計期間に「フルール・ガーデン市原」及び「フルール・ガーデン相模原」に関する事業を譲受けたことにより、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの発生額は、当第3四半期連結累計期間においては113,471千円であります。

なお、上記ののれんの金額は、暫定的な会計処理の確定に伴う見直し反映後の金額であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヘルスケアソリューション事業	在宅サービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,562,689	1,162,390	3,725,080	—	3,725,080
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,562,689	1,162,390	3,725,080	—	3,725,080
セグメント利益	302,892	270,501	573,394	△400,272	173,122

(注) 1. セグメント利益の「調整額」△400,272千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「在宅サービス事業」セグメントにおいて、2022年12月1日に当社の連結子会社である株式会社カンケイ舎によって行われた住宅型有料老人ホーム「フルール・ガーデン市原」及び「フルール・ガーデン相模原」に関する事業の譲受けによる企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第2四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、取得原価の当初配分額を見直した結果、暫定的に算定されたのれんの金額162,678千円は、会計処理の確定により49,206千円減少し、113,471千円となっております。

(重要な後発事象)

(会社分割による事業承継)

当社は、2024年1月15日開催の取締役会において、当社のレコードブック事業を会社分割(簡易吸収分割)により、当社の連結子会社である株式会社レコードブックに承継させることを決議いたしました。

1. 会社分割の目的

当社グループは「健康な未来」というコーポレートスローガンのもと、「創意革新と挑戦による超高齢社会における課題解決」をミッションと位置づけ、2023年6月に公表した「事業計画及び成長可能性に関する事項」で示した「IIF Vision2030」等を実行し、高齢者の健康寿命延伸の実現、持続的な成長と中期的な企業価値向上の実現に向けた動きを加速しております。

レコードブック事業においては、フランチャイズを中心に全国で224店舗(2024年1月4日時点)展開しており、5年以内に400店舗体制を目指し加盟店開発を積極的に行っております。将来的に、「レコードブック」等の「店舗=リアル」で取得したヘルスケアデータ等を利活用し、既存事業の競争力を高めるとともに、「リアル」×「テクノロジー」により「新たな健康寿命延伸ソリューション」の創出等を目指しております。

しかしながら、コロナ禍によるご利用者の利用控えや新規出店先送り等の影響により、ここ数年は成長が鈍化している状況でありました。このような中、コロナ禍による急速な外部環境の変化や3年に一度の介護保険制度改定に機動的且つ柔軟に対応し、レコードブック事業の成長を再加速させるべく、最適な体制について幅広く検討を進めてまいりました。

その結果、権限移譲を進め意思決定を迅速化することにより、店舗ネットワーク拡大を再加速させるとともに、競争力の強化や周辺領域への展開を図ることが、当社グループ全体の企業価値向上に資するとの判断に至り、レコードブック事業の分社化を決定いたしました。

2. 会社分割の要旨

(1) 会社分割の日程

本件会社分割は、簡易吸収分割の要件を満たしているため、当社の株主総会決議を経ずに行います。

吸収分割決議取締役会	2024年1月15日
吸収分割契約締結	2024年1月15日
分割予定日(効力発生日)	2024年4月1日(予定)

※本件会社分割は、当社においては会社法第784条第2項に規定する簡易吸収分割であり、株式会社レコードブックにおいては会社法第796条第1項に規定する略式吸収分割であるため、それぞれの株主総会による承認は省略いたします。

(2) 会社分割の方式

当社を分割会社とし、株式会社レコードブックを承継会社とする吸収分割方式であります。

(3) 会社分割に係る割当ての内容

本件会社分割は、当社と当社の完全子会社との間で行われるため、本件分割による株式会社レコードブックから当社への対価の交付はありません。

(4) 会社分割に伴う新株予約権および新株予約権付社債に関する取扱い

当社が発行する新株予約権の取扱いについて、本件会社分割による変更はありません。なお、当社は、新株予約権付社債を発行しておりません。

(5) 会社分割により減少する資本金

本件会社分割による当社の資本金の減少はありません。

(6) 承継会社が承継する権利義務

効力発生日における当社のレコードブック事業に関する資産、負債、契約およびこれらに付随する権利義務のうち、吸収分割契約書において定めるものを承継します。

(7) 債務履行の見込み

当社は、本件会社分割により当社および承継会社が負担すべき債務について、その履行に問題はないものと判断しております。

3. 分割の当事会社の概要

(1) 吸収分割会社

(1) 名称	株式会社インターネットインフィニティー	
(2) 所在地	東京都千代田区二番町11-19	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 別宮 圭一	
(4) グループ事業内容	ヘルスケアソリューション事業(レコードブック事業、Webソリューション事業、アクティブライフ事業)、在宅サービス事業(居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業、施設介護事業)	
(5) 資本金	252百万円	
(6) 設立年月日	2001年5月7日	
(7) 発行済株式数	5,427,771株	
(8) 決算期	3月31日	
(9) 大株主及び持株比率 (2023年9月30日現在)	株式会社別宮圭一事務所	19.61%
	大同生命保険株式会社	7.54%
	別宮 圭一	6.35%
	キューピー株式会社	4.52%
	MSIP CLIENT SECURITIES	4.33%

(10) 直前事業年度の 財政状態及び経営成績 (2023年3月期 連結)	純資産	1,288百万円
	総資産	3,184百万円
	1株当たり純資産	238.56円
	売上高	4,464百万円
	営業利益	96百万円
	経常利益	146百万円
	親会社株主に帰属する当期純利益	33百万円
	1株当たり当期純利益	6.27円

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(2) 吸収分割承継会社

(1) 名称	株式会社レコードブック
(2) 所在地	東京都千代田区二番町11-19
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 林 岳史
(4) 事業内容	レコードブック事業（リハビリ型通所介護、フランチャイズ運営）等
(5) 資本金	20百万円
(6) 設立年月日	2023年11月1日
(7) 発行済株式数	400株
(8) 決算期	3月31日
(9) 大株主及び持株比率	株式会社インターネットインフィニティー 100.0%

(注) 承継会社は2023年11月設立であるため、確定した最終事業年度はありません。

4. 分割する事業部門の概要

(1) 分割する部門の事業内容

レコードブック事業（リハビリ型通所介護、フランチャイズ運営）等

(2) 分割する部門の経営成績（2023年3月期）

売上高 1,855百万円
売上総利益 609百万円
営業利益 284百万円

(3) 分割する資産、負債の項目及び金額（2023年9月30日現在）

資産		負債	
項目	帳簿価額	項目	帳簿価額
流動資産	45百万円	流動負債	62百万円
固定資産	196百万円	固定負債	31百万円
合計	242百万円	合計	94百万円

(注) 上記金額は2023年9月30日時点の貸借対照表を基準として算定しているため、実際に承継される金額は、上記金額に効力発生日までの増減を調整した数値となります。

5. 会社分割後の概要

本会社分割による当社の名称、本店所在地、代表者の役職・氏名、資本金及び決算期の変更はありません。

6. 実施する予定の会計処理の概要

本会社分割は、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日 企業会計基準委員会）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日 企業会計基準委員会）に基づき、共通支配下の取引として処理する予定です。